

---

# 岐阜県立岐阜工業高等学校

学 校 長 長屋 千秋

学校住所 岐阜県羽島郡笠松町常盤町 1700 電話 058-387-4141

---

1 会議の名称 岐阜県立岐阜工業高等学校 学校評議員会（第2回）

2 会議の構成 委 員 河合 一郎 株式会社光製作所 総務部長  
木村 眞弓 地域住民代表  
杉山 広子 地域住民代表  
長屋 博明 育友会長

(委員名は五十音順)

学 校 側	長屋 千秋	校長	中田 卓生	教務主任
	若松 卓郎	副校長	宮浦 英夫	生徒指導主事
	加納 義之	事務部長	本田 悟志	進路指導主事
	下川 治	教頭（全）	岡田 春雄	工業教育部長
	藤田 正昭	教頭（全）		

3 会議の目的 学校運営等について、学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを目指す。

4 会議の開催 平成27年2月13日(金) 13:10~17:00 岐阜工業高等学校 記念館、他  
委員4人と学校側9人が出席

5 会議の概要

<体育館>

「生徒研究発表会」参観

<記念館大会議室>

・合評会

<記念館資料室>

(1) 開式

・学校長挨拶

(2) 協議

① 「生徒研究発表会」を参観して

② 本校の近況と課題について 自己評価報告（全日制、定時制）

③ 岐阜工業高校に期待すること

学校教育に対する提言

(3) 連絡等

① 「生徒研究発表会」を参観して

3年生各学科の代表が、課題研究などで取り組んできた成果を全校生徒の前で発表。企業や大学、中学校、評議員、育友会役員等 約60名の来賓の参観を得る。

意見 1 いい発表会だった。ただ、他人に聴いてもらう発表としては、科によって温度差があったかなと感じた。

意見 2 科の特徴からテーマを選んであり、学校に対するプライドが伝わってきていい発表会だった。ものづくりの中核校ということで期待をして見させてもらったが、期待に違わずいい発表であった。

意見 3 映像の取り入れ方やアピールの仕方が年々うまくなっている。部外者の自分にとっても、わかりやすい内容であった。卒業研究をとおして、校内にとどまらず、一歩外に出た活動内容もよかった。

意見 4 若い時にいろいろ経験することは財産となる。世界へ眼を向けた活動は、素晴らしい経験である。発表自体は科によっては早口だったりして改善の余地はあるが、全般的にはよかった。

② 本校の近況と課題について

\*自己評価の報告（全日制）（定時制）

自己評価票を通して、本校の教育活動の具体的な取り組みと課題を、全日制（教務部、生徒指導部、進路指導部、工業教育部）、定時制（副校長）より、各々報告。

③ 岐阜工業高校に期待すること、学校に対する要望・ご意見等

意見 1 あいさつはコミュニケーションを形成するうえで非常に重要なこととなる。しかしながら、気になる生徒が特に下級生に感じられた。指導の継続をお願い

したい。

以前に運動会で壇上よりあいさつをさせてもらったが、全体に生徒がざわついていて印象を持った。また体操の際にもしっかりとやるように来賓より注意を受けていた。今回の生徒発表会の全体講評においても、後ろのほうでざわざわしていたように思う。話しているほうとしては気になるものである。高校生だから許されるというものではないし、人数が多いから許されるものでもない。聴く姿勢に対して改めて御指導をお願いしたい。

意見 2 初めて本校に来させてもらったが、生徒から気持ちいいあいさつをしてもらった。こういった指導、取り組みはぜひ続けていってほしい。

しかし、全体が集まったときに、他人が話しているのにざわついたりして話をきけないということはいけない。コミュニケーションをとるということは、まず相手の話していることをきちんと聞くということが基本となる。目と目を見て話すとか、当たり前のことをきちんと押さえて、コミュニケーションの技術を高めていってほしい。

意見 3 女子がいることによって、発想が豊かになるなど全体の雰囲気良くなっていくと思う。昔に比べると岐阜工業高校も女子が増えてよくまとまっていると感じる。自分はこの近くに住んでおりPTAの役員もしていたので、岐阜工業の生徒が頑張っているということはよくわかるが、世間ではどうかと思う。

新聞などでも岐阜工業の生徒が頑張っているという記事を見ると嬉しく思うが、こういったアピールの仕方も工夫してもらって、ますます発展していってほしい。

意見 4 自分の娘がこの学校にいたころは、あいさつがきちんとできている学校という印象は持っていなかった。最近はいいさつもすっかりしてくれて、変わったんだという印象を持っている。

## 6 会議のまとめ

今回（第2回評議員会）は、「生徒研究発表会」を参観していただき、プレゼンテーション能力や課題学習の在り方などについて貴重な意見をいただいた。

「生徒研究発表会」において、その発表内容や、方法・態度は、年々向上しているという評価をいただいたが、コミュニケーション能力の育成に関して、話を聞くという最も基本となるところが疎かになっている生徒が散見されたと指摘を受けた。

あいさつへの取り組みが評価され、学習内容においても、その質は年々高まっていると高い評価も受けたが、基本となる聞く姿勢に一層の指導改善の要があり、当たり前前としてできるよう、指導の改善を今後も続けていきたい。